

**【参考】
改善工程表の見方**

平成27年度 総合計画進行管理 2次評価に対する対応方針及び施策の改善工程表

施策名	1	地域福祉の推進	所管局	健康福祉局	局・区長名	和光 亨
-----	---	---------	-----	-------	-------	------

平成26年度実績データ

指標No.	指標名	目標値(a)	実績値(b)	達成率(b/a又はa/b)%	評価
成果指標1	地域で、住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合[単位:%]	38.3	30.5	79.6%	C
サブ指標1	ボランティア登録制度(いるかバンク)の登録者数[単位:人]	823	777	94.4%	B
サブ指標2	ノンステップバスの導入率[単位:%]	18.6	21.1	113.4%	A
1次評価 (所管局による自己評価)		B		2次評価 (総合計画審議会による外部評価)	
				B	

改善工程表を作成する原因となった実績データを記載しています(H26実績)。記載事項は、成果指標(サブ指標を含む)の目標値、実績値、達成率及び評価並びに総合評価(1次・2次)の結果です。

対応方針

1	<p>建議書における総合計画審議会からの意見</p> <p>成果指標の結果の分析に当たり、目標が達成できなかった場合は、その原因と改善方策を明記すべきである。そのことを踏まえて次の施策を展開されたい。</p> <p>相模原市社会福祉協議会の活動は、地域福祉の推進に重要な役割を担っていることは理解するが、補助金の決算額が毎年増加している現状を踏まえ、自主財源の確保等に一層取り組まれるよう働きかけられたい。</p> <p>成果指標「指標1 地域で、住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合」の達成率が毎年低下しており評価となっている。民生委員協力員制度などの新たに実施する取組の評価も含め、原因を分析した上で課題を整理し、目標達成に向けた取組を実施されたい。</p>	<p>建議書における当該施策に係る意見を記載しています。 H27.10月時点</p>
2	<p>課題の分析 記載欄内の番号は「1」の番号と一致している</p> <p>第3期地域福祉計画策定時に行った調査の結果、活動の悩みとして、これまで地域福祉の担い手であった方が高齢化して活動ができなくなるケースや次世代の育成が上手くいかないとの回答があることから、サロン活動などの地域福祉活動が増えず、地域で支え合っていると感じる機会も増えていないと考える。また、総合計画の進行管理等に係る市民アンケート調査の結果では、年代では、「20代」から「30代」、職業別では、「会社員、公務員、団体職員」、「学生」の区分で、地域で支え合っていると回答している割合が低いことから、これらの区分に属する市民が、現在地域で行われている地域福祉の活動を知らないことが原因と分析する。</p> <p>市社会福祉協議会の自主財源の中心は、一般会費、寄付、共同募金になるが、人口の伸びは鈍化しており、また長引く不況に伴い、これらの財源は減少傾向にあり、厳しい状況である</p> <p>成果指標の目標を達成できていない理由は、に掲げているが、その他にも、地域での困りごとを解決するために必要な地域団体等を結びつけるコーディネーターが不足していることが考えられる。</p>	<p>意見を踏まえて、施策推進に当たった課題を分析したものです。</p>
3	<p>対応方針 (改善内容) 記載欄内の番号は「1」の番号と一致している</p> <p>市内22地区で取り組む、地域の困りごとを地域住民が発見し解決する仕組みである、福祉コミュニティ形成事業における各地区の事業報告を1つにまとめて各地区に提供する。また、まとめた事業報告について、市ホームページに掲載する。</p> <p>市社会福祉協議会では、平成27年度から平成31年度を計画期間とする「財政計画」を策定し、自主財源確保の目標を定めている。「財政計画」では、自動販売機の設置推進や新たな寄付制度の導入を定めており、自動販売機の設置推進策としては自治会への働きかけ、新たな寄付制度の導入については、用途を特定した寄付制度の導入を目指している。市としては、これらの取組が推進されるよう支援する。</p> <p>必要な地域団体等を結び付けるコーディネーターの役割を果たす職として、平成27年度を始期とする第3期地域福祉計画の重点的な取り組みである「コミュニティソーシャルワーカーの配置による横断的な支援」を実施し、地域で困っている方を地域住民が支援する仕組みを構築する。</p>	<p>2の課題解決に向けた具体策を記載しています。</p>
4	<p>改善によって見込まれる効果 [対応方針の目的・意図] 記載欄内の番号は「1」の番号と一致している</p> <p>他地区の取組をまとめて提供する仕組みを作ること、各地区では、担い手の確保に成功している他地区の取組を参考にすることができ、地域福祉活動の活発化につなげることができる。また、事業報告を市ホームページで紹介し、市民に対して幅広く周知することで、若い世代や日中働く人が、地域福祉の活動を知る機会を増やすことができる。</p> <p>自治会に対して協力を呼びかけることで、新たな設置箇所の確保につなげ、用途を明確にした寄付制度を新設することで、新たな寄付者の開拓につなげることができる。これらの取組を通じて、自主財源の新たな確保を図る。</p> <p>コミュニティソーシャルワーカーは、地域住民だけでは見えにくかった地域にある課題を発見し、課題に応じた地域住民による支援体制の構築を促進することで、地域住民による支援体制の1つとして、新たなサロンの設置に結び付けていく。</p>	<p>記載した対応方針を実施することにより見込まれる効果を具体的に記載しています。</p>
5	<p>平成28年度当初予算へ反映した内容</p> <p>平成27年度当初予算 596,264 千円 平成28年度当初予算 千円</p>	<p>施策全体に係る当初予算額を記載(H28はモニタリング評価時に記載)します。</p>

1	スケジュール (工程) 記載欄内の番号は対応方針「1」の番号と一致している	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協、市社協、市の3者による福祉コミュニティ形成事業の評価検証方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協、市社協、市の3者による福祉コミュニティ形成事業の見直し ・福祉コミュニティ形成事業の事業実績報告のまとめ書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉コミュニティ形成事業の事業実績報告のまとめ書を地域に提供 ・市ホームページへの掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における福祉コミュニティ形成事業の事業実績報告のまとめ書の活用
		<ul style="list-style-type: none"> ・市社会福祉協議会が開催する「経営基盤強化委員会」に出席し助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・市社会福祉協議会による平成27年度の自主財源確保に向けた取組結果の收受 	<ul style="list-style-type: none"> ・市社会福祉協議会が提出した取組結果についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・市社会福祉協議会が開催する「経営基盤強化委員会」に出席し助言
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーカーの配置による横断的な支援の実施(モデル3地区で実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーカーの配置による横断的な支援の実施(モデル3地区で実施) ・モデル3地区における平成27年度の事業実施結果のまとめ書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーカーの配置による横断的な支援の実施(モデル3地区で実施) ・モデル3地区における平成27年度の事業実施結果の評価・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティソーシャルワーカーの配置による横断的な支援の実施(モデル3地区で実施) ・モデル3地区における事業実施結果を踏まえた本実施の内容検討
2	対応方針及び改善工程スケジュールについての評価 記載欄内の番号は対応方針「1」の番号と一致している	取組結果に対する分析・評価(第2四半期までの取組状況)			
		取組結果により得られた具体的な成果及び第4四半期終了時点で見込まれる効果			
3	(2に対する)総合計画審議会のモニタリング評価				
4	3(総合計画審議会からの評価)を受けての改善策				

対応方針3の対応方針を四半期ごとの取組として具体化したスケジュールを記載しています。

H28.6月頃に予定している自己評価を行う際に記載します。

H28.8月頃に実施する予定の総合計画審議会によるモニタリング評価の結果を記載

3を受けての改善策を記載します(H28.12月頃を予定)。